令和4年2月13日　小樽ジャーナル
雪あかりの路にて本学学生約30名が協力した旨記載

ホーム　投稿

小樽運河のあかり人　有志で雪あかりの路

2022/2/13 イベント・観光, 四季・自然・天気, 市政･市議会, 注目記事

2022(令和 4)年の小樽雪あかりの路 24 は、メーン会場の設定はなく、2 月 11 日(金)～13 日(日)、あかり人が町中を雪あかりにしようと実施され、各家庭の軒先や店先にロウソクのあかりが灯された。

本来メーン会場だった小樽運河(中央橋～浅草橋)では、有志のあかり人が集まり、ロウソクの灯を絶やさず守り続け、幻想的な光景を創り、多くの灯を楽しむ人たちが連日行き交った。

小樽おもてなしボランティアの会の野澤和男さんも、同イベントのためにワックスボウルの制作から旧手宮線会場の設営など、雪あかりのイベントに長年貢献している 1 人で、今回はあかり人として運河会場に参加。運河散策路の押葉入りのアイスキャンドルは、野澤さんが正月明けから作り始めたものだという。

小樽商科大学生約 30 名の協力で、運河側の雪壁の上に 200 個ほどのスノーキャンドルを設置するため、7 日(月)から準備を行っていた。

期間中は 15:00 に集合して、溶けたスノーキャンドルなどを手直ししたり、ロウソクに点灯したり、あかりのおもてなしに貢献している。

最終日の 13 日(日)は、一足早く野澤さんが 1 人で作業を行っていた。溶けたスノーキャンドルの撤去と使えるものは手直しし、21:00 の消灯後の後片づけまで会場で頑張っている。

運河の定番の浮き球キャンドルは、運河に浮かべず雪上に置くと、風の影響も受けずに点灯し続け、運河クルーズの運航にも支障がなく、これまでとは違った出番があった。

雪あかりには旧手宮線でお馴染みのハートや星をかたどった雪の造形を制作して、会場を盛り上げる宮城県仙台市在住の千葉洋さんは、7 日に来樽し、あかり人として 2 年ぶり 14 回目の参加。

運河会場で、ハートや星をかたどったパーツでキャンドルホルダーを制作。すでに SNS でも紹介され、幻想的な光景を醸し出している。

千葉さんは、2008(平成 20)年から同イベントに参加し、初めの頃は運河会場で 2 年ほど制作していたこともあり、同会場は久しぶりだそうで、「3 日間開催と聞き、公式ではなくなったと知ったが、ずっと来ているし小樽が好きなので遊びに来た」と話していた。

あかり人がそれぞれの思いで灯すあかりがおもてなしとなり、最終日を飾った。

令和4年2月14日　小樽ジャーナル
「北前船」関連のオンラインセミナーについて
（本学　高野学術研究員がコーディネーターを務める）

ホーム　投稿

北前船関連オンラインセミナー　2/17 まで参加募集

2022/2/14 イベント・観光, 文化・歴史・芸術

NPO 法人北海道遺産協議会主催、北海道と一般社団法人北前船交流拡大機構の協力で、日本遺産「北前船」関連オンラインセミナー「北海道北前船遺産(道北･道央編)～北前船の特徴とその活用」が、2 月 18 日(金)19:00～21:00、Zoom によるオンラインで開催され、定員 80 名の参加者を 17 日(木)まで募っている。参加は無料。

小樽商科大学令和 3 年度グローカルプロジェクト「日本遺産を活用した小樽の with コロナ対応型広域観光実証事業」(高野宏康研究代表)、様々な立場から各地の地域遺産の保全活用に携わる方々の話を聴く学びの場「ヘリテージ･ラボ」共催。

今回は、「北海道の北前船遺産」(道北･道央編)をテーマに、各地で北前船遺産の調査研究･活用に取り組んでいる、以下の 3 名を講師に迎える。

オホーツクミュージアムえさし館･高畠孝宗館長(学芸員)
いしかり砂丘の風資料館･坂本恵衣学芸員
うんがぶらす株式会社･髙橋琢磨代表取締役

コーディネーターに、小樽商科大学グローカル戦略推進センターの高野宏康学術研究員が務める。

◎北海道ヘリテージラボ･オープンラボ「北海道の北前船遺産(道北･道央編)」参加申込フォーム(外部)
問合せ:011-218-2858
mail:info@hokkaidoisan.org